

エコアクション21

環境経営レポート

2022年度

(2022年9月～2023年8月)

2023年11月28日

二興金属株式会社

目次

計画の策定	1
計画の実施	2
取組状況の確認及び評価	4
全体の評価と見直し	5

1 組織の概要

事業者名及び代表者名	二興金属株式会社	代表取締役	横関直彦
設立年月日 資本金 売上	1948年2月19日	資本金4000万円	売上249百万円
対象事業所名・所在地	本社事業所 東京都墨田区本所1-10-11 川崎事業所 神奈川県川崎市川崎区田町3-1-2		
環境管理責任者名	代表取締役 横関直彦		
連絡先	TEL 03-3622-5111		

2 対象範囲

本社事業所 産業廃棄物収集運搬業 / 金属スクラップ卸売業
川崎事業所 産業廃棄物中間処理業

3 環境経営方針

基本理念 二興金属株式会社は持続可能な発展をしていくために地球環境と調和した企業経営を行ってまいります。金属リサイクル事業及び飲料容器リサイクル事業を行う中で、環境への負荷を継続的に低減させてゆき、環境汚染を防止し、社会へ貢献することを目的とします。

基本方針 この基本理念を遂行するために環境マネジメントシステムを導入します。
事業活動における環境負荷低減を行います。
提供するサービス・製品及びサプライチェーンの環境負荷低減を行います。
事業活動を通じて人材育成を行い、従業員の質向上と生活向上を行います。
この基本方針を履行することにより、環境経営の継続的な改善を誓約します。

行動計画 車両燃料と電力・ガス消費に伴う二酸化炭素排出量を削減します。
廃棄物排出量削減を行いリサイクルを推進します。
節水に努め、水資源使用量削減を行います。
化学物質使用量削減に努め、その使用量を管理します。
環境配慮製品とサービス提供を行います。
環境関連法規、条例等を遵守することを誓約します。
この環境経営方針は、全従業員に周知します。

2021年4月22日 二興金属株式会社 代表取締役 横関直彦

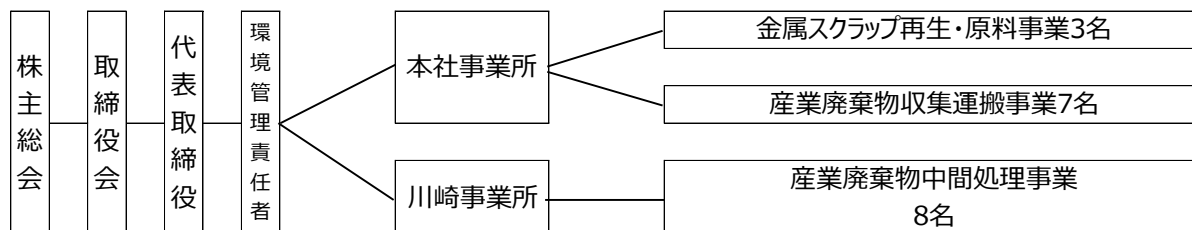
4 環境経営目標

持続可能な資源循環型社会の構築に向けて、金属リサイクル及び飲料容器リサイクル事業における流通・廃棄物処理を担っている二興金属株式会社では廃棄物の収集運搬、金属スクラップの運搬選別等の事業活動を通じて、下記の内容に即し環境への影響を配慮して、環境への負担の低減と汚染の予防を図りま

5 環境経営計画

- 1 環境経営目標及び行動計画として下記の重点項目を設定し、必要に応じて見直すことによって、環境方針に整合した活動を行います。
 - ・二酸化炭素排出量削減のために省エネルギーの推進
 - ・廃棄物の削減と積極的な分別によるリサイクルの推進
 - ・水使用量の削減
 - ・事業活動における環境配慮製品・サービスの提供
 - ・地域に対する環境要求の配慮
- 2 環境コミュニケーションを通じて、環境活動の状況を内外に伝達します。
- 3 全従業員に、この環境方針を周知します。

6 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容 (組 織 図)



役職及び担当者	責任及び権限
代表者 横関直彦	- 環境管理責任者の任命 - 経営における課題とチャンスの明確化 - 実施体制の構築 - 環境経営方針の制定 - 各人の役割責任及び権限を定め全従業員への周知 - エコアクション 2.1 の運用と維持するための経営資源の準備 - 環境経営システムの定期的見直しの実施
環境管理責任者 横関直彦	- 環境経営システムの実績報告の作成と報告 - 環境管理委員会の委員長として委員会の運営 - 推進機関である E A 2.1 E M S 事務局の責任者として事務局運営 - 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者
推進責任者 黒羽春城 (川崎) 佐藤将雄 (本社)	- 部門の環境経営システムの部門実施事項責任者 - 部門実施事項の部門員への教育及び活動の徹底 - 環境関連法規の確認

廃棄物処理の許可・登録の状況

・産業廃棄物

許可年月日	有効期限
2002/7/1	2027/6/30
東京都収集運搬 1300025152	許可品目 積保除く 廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず

許可年月日	有効期限
2012/1/16	2027/1/15
神奈川収集運搬 1402025152	許可品目 積保除く 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鉋さい、がれき類、ばいじん

許可年月日	有効期限
2007/8/1	2027/7/31
川崎市中間処理 5720025152	許可品目 処理能力 ガラスくず 5.40 t /日 破碎施設 廃プラスチック類 (硬質) 7.26 t /日 圧縮施設 廃プラスチック類 (軟質) 1.44 t /日 圧縮施設 紙くず 1.44 t /日 圧縮施設 金属くず 8.46 t /日 選別・圧縮施設

・廃棄物再生事業者登録

東京都	199	登録内容	金属くずの再生	登録年月日	2000/8/18
神奈川県	G00235	登録内容	金属くずの再生	登録年月日	2007/8/3

稼働状況

本社事業所		2022年度	2021年度	2020年度
従業員	人	12	11	11
スクラップ運搬量	トン	6047	5245	6133
産業廃棄物運搬量	トン	1469	1203	927
建物床面積	m ²	128.52	128.52	128.52

川崎事業所		2022年度	2021年度	2020年度
従業員	人	5	4	5
派遣社員・アルバイト	人	3	3	1
産業廃棄物処理量	トン	1469	1203	927
建物床面積	m ²	421.00	421.00	421.00

車両・設備

運搬車両	平ボデー車	2 t 車7台
	脱着式コンテナ車	6 t 車1台 / 8 t 車1台
	塵芥車	3 t 車1台
	ダンプ	8 t 車1台
	フォークリフト	3.5 t 車1台 / 2.5 t 車1台 / 1.8 t 車1台
選別設備	コンベヤーライン	1式
	圧縮機	4基
	選別機	2基

処理工程図

収集運搬	→	中間処理（川崎事業所）	→	処分方法
		ガラスくず	選別 / 破碎	→ 販売 → 再商品化
		廃プラスチック	選別 / 圧縮	→ 販売 → 再商品化
		廃プラスチック（軟質）	選別 / 圧縮	→ 委託処理 → 固形燃料化
		金属くず	選別 / 圧縮	→ 販売 → 再商品化
		古紙	選別 / 圧縮	→ 販売 → 再商品化

処理実績（2022年度）

引取り量	金属スクラップ	:	6,047 t
	産業廃棄物	:	1,469 t
排出量	ガラスくず（有価物）	:	136 t
	廃プラスチック（有価物）	:	714 t
	金属くず（有価物）	:	368 t
	古紙（有価物）	:	8 t
	産業廃棄物	:	123 t

※処理料金については、種類、数量により計算いたします。詳細は当社リサイクル事業部までお問い合わせください。
（連絡先：03-3622-5111）

7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果の評価

項目		基準年2011	目標値	実績値	結果	評価	
	電力	kwh	65,133	48,850	52,168	×	稼働率増加で目標に達しなかった。
	軽油	L	48,793	53,672	53,038	○	扱い数量前年比122%に対し軽油107%
	ガソリン	L	1,601	881	1,164	×	に抑えられ新車への入替で更に燃費を上げ
	都市ガス	Nm3	210	168	146	○	温度管理による削減を今後も進めていく。
	LPG	kg	269	349	336	○	増員対応になるので給湯量の注意を要す
CO2排出量削減 (kg/Co2)		163,069	166,142	166,477	×	軽油消費の割合が多いので燃費改善のため の車両更新を更に進めていく。	
廃棄物排出量削減(kg)		77	15	52	×	厨芥ゴミ削減とリサイクル容器使用率向上を 目指す	
廃棄物再生率向上(%)		78.3	86.1	87.1	○	数量に応じた増員対応をとることにより目標 値に達した。	
水使用量削減 (m3)		1,307	1,176	1,260	×	電力と同様、稼働率があがることで消費量が 増し目標に達することができなかった。	
化学物質使用量管理 (kg)		—	0	0	○	化学物質情報収集と使用量削減、管理の 徹底と使用する場合は削減努力を行う。	
環境配慮製品の改善とサービス 向上 (回)		実績回数の 記録と表記	収運提供303611回 処分過程提供199回		収集運搬、処分・販売それぞれの過程で先 様への配慮と記録、提案と支援を行う。		
関連地域に対する環境配慮と 共生 (回)		実績回数の 記録と表記	周辺地域への配慮行動 11回		騒音・振動・悪臭・隣接道渋滞回避・従業 員ストレス回避等項目を決定、活動を行う。		

※電力の二酸化炭素排出係数は2015年東京電力エナジーパートナー実績の調整後排出係数0.491kg-CO2/kWh適用した。

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

項目	今年度環境経営計画	次年度環境経営計画	目標値
	(抜粋)		2022年度 2023年度 2024年度
電力	非作業エリア分割消灯 機器類抵抗値削減	無駄残業削減 休憩時間消灯	48,850 45,593 42,336 kwh/年以下
軽油	土日祝祭日減車減員 インジェクションクリーナー活用	2000回転以内運転 5000kmオイル交換	53,672 51,233 48,793 L/年以下
ガソリン	急発急ブレ空ふかし注意 タイヤ摩耗チェック	アイドリングストップ 燃費向上と旧車廃車	881 801 720 L/年以下
都市ガス	暖房器具タイマー活用 都市ガス非使用期間非契約	暖房器具タイマー活用 都市ガス非使用期間非契約	168 158 147 Nm3/年以下
LPG	閑散期非稼働曜日設定 給湯設定温度管理	閑散期非稼働曜日設定 給湯設定温度管理	349 336 322 kg/年以下
CO2排出量削減			166,142 158,000 149,858 kg-CO2/年以下
廃棄物排出量削減	古紙業者への持込習慣化 電子マニ化で紙マニ削減	FAX受信PDF化 line展開で書面削減	15 12 8 kg/年以下
廃棄物再生率向上	解体物→鋼材回収→再資源 機器メンテ→設備延命	ワンウェイパレット廃止 リチウムイオン電池選別徹底	86.1 90.0 93.9 %以上
水使用量削減	日常的節水励行 グリストラップ点検清掃	メーターコマチェック 検針員情報活用	1,176 1,111 1,046 m3/年以下
化学物質使用量管理	使用物の有害性の把握 化学物質使用量把握	使用物の有害性の把握 化学物質使用量把握	0 0 0 kg/年以下
環境配慮製品の改善とサービス向上	クレーム発生時の対処迅速化 ルートローテーションで情報共有	クレーム発生時の対処迅速化 ルートローテーションで情報共有	部門別提供実績・クレームの記録と分析の実施
関連地域に対する環境配慮と共生	過去事例の記録とチェック 苦情再発防止検討と情報展開	過去事例の記録とチェック 苦情再発防止検討と情報展開	部門別提供実績・クレームの記録と分析の実施

8 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

遵守状況を2023年3月27日に確認した結果、記環境関連法規への違反はありません。
なお当局より違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。またその間訴訟もありません。

遵守状況の確認・評価		チェック日結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ 廃棄物処理施設の設置/変更許可 ・ 廃棄物の処理業の許可 ・ 契約書の締結 ・ マニフェストの使用管理 ・ マニフェストの年間交付状況の報告 ・ 処理/保管基準の厳守 ・ 収集運搬 ・ 処理方法・現地確認 ・ 処理業者のマニフェスト取扱	11/4適合
特定家庭用品機器再商品化法（家電リサイクル法）	・ 廃棄物の抑制と使用後の適正な業者への引渡	11/4適合
容器包装リサイクル法	・ 容器包装廃棄物の排出の抑制と分別収集の促進	11/4適合
資源有効利用促進法	・ 原材料の使用の合理化と再生資源及び再生部品の利用の促進	11/4適合
循環型社会形成推進基本法	・ 原材料等の廃棄物化の抑制	11/4適合
騒音規制法・振動規制法	・ 当該特定工場に係る規制基準の遵守	11/4適合
水質汚濁防止法	・ 事業場から排出される排水の地下浸透防止と水質の汚濁防止の遵守	11/4適合
悪臭防止法	・ 事業活動に伴って発生する悪臭について防止対策を推進する	11/4適合
オフロード法	・ フォークリフトの排気ガス規制	11/4適合
自動車NOX・PM法	・ 窒素酸化物排出基準粒子状物質排出基準の適用	11/4適合
東京都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	・ ディーゼル規制 ・ アイドリングストップ	11/4適合
東京都自動車管理指針	・ 輸送効率向上の工夫	11/4適合
道路運送車両法	・ 車両保安基準の厳守 ・ 車両の点検整備の厳守	11/4適合
道路交通法	・ 運転者及び車両使用者の義務	11/4適合
使用済み自動車の再資源化に関する法律・法令（自動車リサイクル法）	・ 車両所有者の廃車時適正処分義務 ・ リサイクル費用の預託とリサイクル券の保管	11/4適合
消防法	・ 指定数量以上の危険物貯蔵の禁止 ・ 消火設備の設置義務	11/4適合
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	・ 管理者の責務（第5条） ・ 第1種特定製品の管理者が講ずべき措置（第16条）	11/4適合
労働安全衛生法	・ 労働災害の防止 ・ 安全衛生責任者の選任	11/4適合
川崎市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例	・ リスク低減の実施 ・ 廃棄物の排出抑制、再利用及び再生利用の促進 ・ 発生廃棄物の適正処理	11/4適合
川崎市環境基本条例	・ 環境汚染の防止、良好な環境の保全 ・ 事業活動に伴って生ずる環境への負荷の低減	11/4適合
墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例	・ 廃棄物の排出抑制、再利用及び再生利用の促進 ・ 発生廃棄物の適正処理	11/4適合
川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例	・ 事業所における水質汚濁の防止 ・ 事業所における騒音振動の防止	11/4適合

全体の評価と見直し

Act

9 代表者による全体の評価と見直し・指示

前期同様運搬車両の入れ替えによる燃費向上から扱い数量の増加に比べて低いCO2排出量になった設備の更新入れ替えも進めて効率的な処理体系にしていきたい。また一時の世界的な経済活動の低迷も収まり爆発的な勢いで復興へ向かっている。そんな中でテロや災害、システム障害を想定したBCP（事業継続計画）等新しいリスクマネジメントが要求されるようになってきた。このようなシステムもエコアクションで行われているPDCAを活用した組み立てを行い、継続してステップアップしていくことを目標としていきたい。
環境経営方針・・・変更なし 実施体制・・・変更なし